

2018年度

日本法社会学会 学術大会

日時

2018年5月26日(土)
27日(日)

会場

鹿児島大学郡元キャンパス
法文学部棟1号館・3号館

非会員
聴講料

1000円

事前申込



<http://bit.ly/2HC1fDu>

※参加のみ、当日申込も受け付けます。

※本大会の資料は、原則、Webを通じて取得することになり、会場では配布しません。

※非会員の方で事前に資料を取得したい方は、期限までに事前申込みをお願い致します。電子メールを通じて取得方法をご案内致します。(申込期限:5月15日(火))

主催：日本法社会学会

(<http://jasl.info/>)



後援：鹿児島大学司法政策教育研究センター

【お問い合わせ】

鹿児島大学司法政策教育研究センター TEL：099-285-7569/3905

FAX：099-285-7600

MAIL：center_support@ls.kagoshima-u.ac.jp



日本法社会学会 2018 プログラム (鹿児島大学)

2018年5月26日(土) 9:00-18:00 個別報告 & ミニシンポジウム

9:00 12:30	<p>ミニシンポジウム① 櫻澤秀木 『「諫早湾干拓紛争」の諸問題——法学と政治学からの分析』 櫻澤秀木「リスク社会における紛争処理」 岡庭幹司「民事裁判による紛争解決とその限界」 加藤雅俊「紛争処理システムとしての裁判制度の意義と限界」 御幸聖樹「紛争をめぐる政治部門と裁判所」 児玉弘「大規模公共事業をめぐる行政過程と行政訴訟・民事訴訟」 宮澤俊昭「諫早湾干拓紛争をめぐる裁判における因果関係判断の検討」 西川佳代「民事紛争処理手続の今後の課題」</p>	<p>ミニシンポジウム② 宮澤節生 『「不平等」と法社会学——理論構築のための予備的検討——』 宮澤節生「本ミニシンポジウムの背景と目的」 長谷川貴陽史「日本の法社会学における『不平等』」 飯田 高「欧米における現代『不平等』研究の法社会学上の意義」 上石圭一「欧米の法社会学における『不平等』」 佐伯昌彦「アメリカと日本の刑事司法研究・犯罪社会学における『不平等』」 大塚 浩「日本における現代『不平等』研究の法社会学上の意義」 宮澤節生「本プロジェクトの将来構想」</p>	<p>ミニシンポジウム③ 櫻田美雄 『法律相談と法的交渉研修のビデオ・エスノグラフィ——その理論と実際』 櫻田美雄「実際及び模擬の法律相談と法的交渉のビデオデータをもとに多様な資質を生かして研修する我々の方法」 北村隆憲「法律相談の相互行為分析と実践への示唆」 岡田光弘「法的交渉研修のビデオ・エスノグラフィ」 コメントータ1： 正込健一朗 コメントータ2： 米田憲市 コメントータ3： 櫻村志郎</p>	<p>ミニシンポジウム④ 飯 考行 『地方における看護師『御礼奉公』労働慣行の実態と法的対応——士業間協働による紛争調整の可能性』 馬場民生「看護師『御礼奉公』の実態と課題——弁護士実務から」 紺屋博昭「御礼奉公契約総論——資金特約付き労働契約の当否」 川口俊一「社会保険労務士としての雇用現場における御礼奉公の現実的問題の把握と制度再構築の必要性」 飯 考行「『御礼奉公』の法社会学」 コメントータ1： 塚原英治 コメントータ2： 福井康太</p>	<p>個別報告分科会① 司会：馬場健一 早瀬利博「神社有地における不作為の入会権——その債権性と近代化」 矢野達雄・牧洋一郎「鹿児島県西之表市馬毛島の入会権確認訴訟の現状と問題点」 松原英世「死因究明関連二法のインパクト」 小泉明子「夫婦別姓をめぐる困難——日米の比較から」</p>
	<p>12:30 13:30 14:30</p>	<p>昼食 [同時帯に女性ランチョンを開催]</p> <p>会員総会</p>			
<p>14:30 18:00</p>	<p>ミニシンポジウム⑤ 久保山力也 『「架橋型」法の教育スキームに基づいた教育教材の開発』 久保山力也「『架橋型』法の教育スキームの理論と実践」 杉田昌平「在留外国人に向けた法学教育の現状と課題」 山本哲史「海外における教育教材の現状」 砂原美佳「『架橋型』法の教育をどのように評価するか」 松尾 弘「法整備支援(協力)からみる『架橋型』法の教育の問題点」</p>	<p>ミニシンポジウム⑥ 藤本 亮 『「新人弁護士のキャリア：専門分化と階層分化を展望して」』 宮澤節生「第62期弁護士調査・第67期弁護士調査の意義と課題」 石田京子「法曹養成課程の評価構築」 上石圭一「若手弁護士の所得の規定因の多量解析」 藤本 亮「事務所内地位の多様化と若手弁護士キャリア」 武士侯教「新人弁護士の弁護士社会構造へのインパクト」</p>	<p>ミニシンポジウム⑦ 高村学人 『「漁場・農地・森林の過少利用問題と規制改革への視座」』 亀岡鉦平「地域社会を見る視点としての漁協とその役割」 緒方賢一「農地の過少利用現象とその対応策」 片野洋平「地域社会における放置される財の状況とその対策」 コメントータ： 吉田克己</p>	<p>企画関連ミニシンポジウム① 「市民社会と社会的排除」 司会：阿部昌樹 佐藤彰一「障害者の排除と市民社会(仮)」 森千香子「『移民・難民危機』に直面する都市」 長谷川貴陽史「ホームレス排除と市民社会」 コメントータ： 橋場典子</p>	<p>個別報告分科会② 司会：飯田 高 馬場健一「行政は司法判断に従うか?——情報公開からみる日本の法治行政の実情」 吉田直起「司法ソーシャルワークにおける支援対象者の自律性——理論的検討と事例分析」 李 英「調停人による解決案の提示についての再考——対話促進の観察可能性」 波多野綾子「ハイトスビーチ解消法にかかる市民社会の動き」</p>
<p>18:30 20:30</p>	<p>懇親会</p>				

14:30-18:00 ポスター・セッション 早瀬利博「神社有地における不作為の入会権——その債権性と近代化」

2018年5月27日(日) 9:00-17:00 ミニシンポジウム & 全体シンポジウム

9:00 12:00	<p>ミニシンポジウム⑧ 菅原郁夫 『2016年民事訴訟利用調査の結果概要』 司会：山本和彦 山本和彦「2016年調査の概要」 垣内秀介「和解をめぐる利用者の評価とその意義」 石田京子「利用者評価におけるジェンダー差」 山田 文「履行率の状況」 菅原郁夫「制度評価の変遷とその原因」</p>	<p>ミニシンポジウム⑨ 若手 WS 幹事 『「若手 WS 企画」学会賞受賞者とのつどい』 郭 薇「『法の支配』の情報社会学——『情報としての法』が言えるまで」(第18回学会奨励賞論文部門) 佐伯昌彦「『犯罪被害者の司法参加と量刑』の背景」(第18回学会奨励賞賞書部門) 森 大輔「二次分析、構造式モデリング——その基本」(第4回機関誌最優秀論文賞)</p>	<p>ミニシンポジウム⑩ 櫻村志郎 『法の質的研究を前進させる』 高橋 裕「文書資料を用いた法の質的研究をめぐる若干の検討」 藤原信行「インタビュー調査の特徴とデータの利用法——試論的考察」 北村隆憲「対話的実践の質的研究——調停と評議の相互行為分析」 コメントータ1：櫻田美雄 コメントータ2：櫻村志郎</p>	<p>企画関連ミニシンポジウム② 「市民社会と法運動」 司会：渡辺千原 河合弘之「脱原発訴訟と市民社会」 愛敬浩二「憲法9条訴訟と市民社会——憲法学者の立場から」 小宮友根「法運動の中の市民社会」 コメントータ： 櫻澤秀木</p>
	<p>12:00 13:00</p>	<p>昼食 [同時帯に若手交流ランチョンを開催]</p>		
<p>13:00 16:50</p>	<p>全体シンポジウム「市民社会と法社会学」 企画 長谷川貴陽史 司会 濱野 亮・仁木恒夫 報告 長谷川貴陽史「企画趣旨説明」 木庭 顕「市民社会の基層と社会学」 吉田克己「末弘・川島・戒能と市民社会論」 広渡清吾「市民社会論のルネッサンスと法社会学」 コメントータ 佐藤若夫</p>			
<p>16:50 17:00</p>	<p>理事長挨拶</p>			